金沢21世紀美術館
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

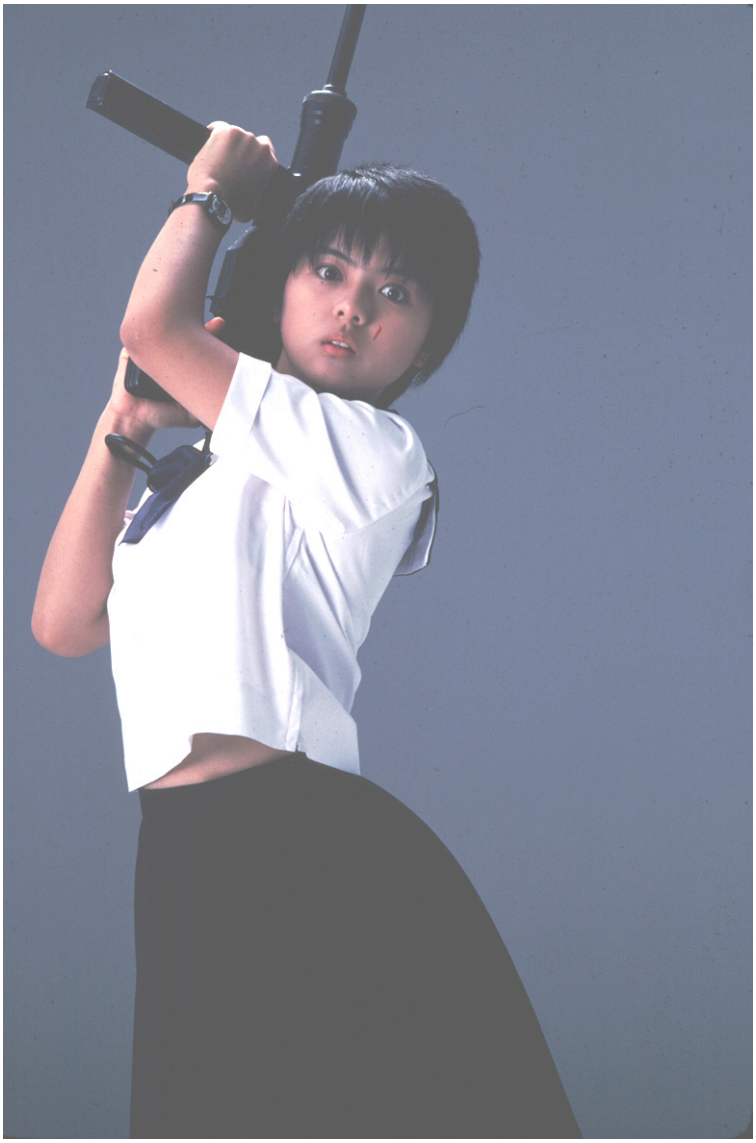
2007 年 8 月 6 日

シアター21 公演開催のお知らせ

映画の極意 Vol.7
「少女がつくった時代ー80 年代、アイドル映画の極意」

2007年9月3日（月）～9月13日（木）
(ただし9月8日は休)

金沢 21 世紀美術館(館長:秋元雄史、所在地:石川県金沢市広坂 1-2-1)シアター21 では、本年 9 月 3 日(月)から 9 月 13 日(木)まで、「映画の極意 Vol.7 少女がつくった時代～80 年代、アイドル映画の極意」を開催いたしますので、お知らせいたします。



本企画について

80 年代、次々とアイドル映画が作られた。そこに登場する少女たちはまさに時代をリードする存在だった。彼女たちが象徴する 80 年代とはどんな時代だったのだろう。そこから見えてくるアイドル達の存在意義と現代への影響。

近年、80 年代当時の作品がリメイクされたり、俳優が再評価されたりといった現象が映画、テレビの世界で起きている。具体的には、長澤まさみを主演に「セーラー服と機関銃」が再製作されたり、宮藤官九郎が「木更津キャッツアイ」や「タイガー＆ドラゴン」で薬師丸ひろ子を、「吾輩は主婦である」で斎藤由貴を起用したり、アニメ「時をかける少女」や、バブル期をテーマした映画「バブルへ Go!」が作られたりといった具体である。この背景には現在第一線にいるクリエーターたちが最も多感な時期を過ごしたのが 80 年代だという背景があるだろう。彼らに影響を与えた 80 年代の映画、特にその時代を象徴する「アイドル映画」にスポットを当てたのが、今回の映画の極意「80 年代アイドル映画の極意」だ。この時期に脚光を浴び、現在でも活躍している薬師丸ひろ子、斎藤由貴、原田知世の 3 人の女優の作品を上映。さらにこの 3 人の作品を撮った映画監督・大林宣彦氏をトークゲストに迎え、その中から 80 年代のアイドル、特に少女達が果たした役割や時代背景を掘り下げていく。映画というメディアを通して当時の文化と現代への影響を知る総合的な企画である。昨年 2006 年に邦画の興行収入が 21 年ぶりに外国映画を上回るなど現在の日本映画の活況を鑑みる場合、この状況を支えている一助は若手クリエーター達で、彼らに直接影響を与えた作品を振り返ることで、現代の創作活動の原点に迫りたい。また金沢ロケ作品も、2 点上映する。

企画概要

◆イベント名　：「映画の極意 vol.7
　　少女がつくった時代～80 年代アイドル映画の極意」
◆主催　　：金沢 21 世紀美術館［(財) 金沢芸術創造財団］
◆後援　　：北國新聞社
◆企画協力　：金沢コミュニティシネマ/シネモンド
◆時期　　：2007 年 9 月 3 日(月)～13 日(木)　ただし 9 月 8 日は休
◆会場　　：金沢２１世紀美術館Ｂ１・シアター２１
◆料金　　：作品鑑賞券／8 月 11 日（土）より発売

当日券	1 回券 トーク券つき 1 回券	1,200 円 1,700 円
前売のみ	3 回券 トーク券付き 3 回券 トーク券付き 1 回券	2,800 円 3,300 円 1,500 円

※ 学生の方は［3 回券］［トーク券つき 3 回券］のみ 500 円引き、友の会割引あり(金沢 21 世紀美術館ミュージアムショップのみ取り扱い)

チケット取扱い：金沢２１世紀美術館ミュージアムショップ、シネモンド、チケットぴあ(P コード:477-980)、ﾌｧﾐﾘｰﾏｰﾄ、ｻﾝｸｽ、ｾﾌﾞﾝｲﾚﾌﾞﾝ、ｻｰｸﾙ K

◆ トークゲスト：大林宣彦
◆上映作品　　：

1「ねらわれた学園」1981/90 分/角川春樹事務所/薬師丸ひろ子/大林宣彦監督
2「セーラー服と機関銃」1981/112 分/角川春樹事務所＝キティ・フィルム/薬師丸ひろ子/相米慎二監督
3「探偵物語」1983/112 分/角川春樹事務所/薬師丸ひろ子/根岸吉太郎監督
4「メイン・テーマ」1984/101 分/角川春樹事務所/薬師丸ひろ子/森田芳光監督
5「W の悲劇」1984/108 分/角川春樹事務所/薬師丸ひろ子/澤井信一郎監督
6「雪の断章-情熱-」1985/100 分/東宝/斉藤由貴/相米慎二監督
7「恋する女たち」1986/98 分/東宝/斉藤由貴/大森一樹監督　※金沢ロケ作品

8「トットチャンネル」1987/97 分/東宝/斉藤由貴/大森一樹監督
9「『さよなら』の女たち」1987/93 分/東宝/斉藤由貴/大森一樹監督
10「時をかける少女」1983/104 分/角川春樹事務所/原田知世/大林宣彦監督
11「愛情物語」1984/角川春樹事務所/原田知世/角川春樹監督　※金沢ロケ作品
12「私をスキーに連れてって」1987/96 分/ﾌｼﾞﾃﾚﾋﾞｼﾞｮﾝ・小学館/原田知世/馬場康夫監督

◆タイムテーブル　：

9月3日(月)　19:00～	セーラー服と機関銃
9月4日(火)　19:00～	探偵物語
9月5日(水)　19:00～	メインテーマ
9月6日(木)　19:00～	Wの悲劇
9月7日(金)　19:00～	愛情物語
9月9日(日)　10:00～	ねらわれた学園
9月9日(日)　13:00～	時をかける少女
9月9日(日)　15:30～	トーク
9月9日(日)　17:30～	恋する女たち
9月10日(月)　19:00～	雪の断章-情熱-
9月11日(火)　19:00～	トットチャンネル
9月12日(水)　19:00～	『さよなら』の女たち
9月13日(木)　19:00～	私をスキーに連れてって

本企画の特徴

①映画をスクリーンで観る幸せ

今回上映される作品は、そのほとんどがビデオ、DVD 化され、家庭にあるモニターで鑑賞することができます。しかし映画には本来“スクリーン”で観る喜びがあります。劇場の暗闇で、フィルムから映し出される光と陰の世界を楽しむ。30 代後半から 40 代の世代、かつて今回の上映作品を観た人たちは、再びこれらの作品を銀幕で観ることで、青春時代の思い出が蘇ってくるかもしれません。

②あの作品のオリジナルがここにある

近年、長澤まさみを主演に「セーラー服と機関銃」が、また「時をかける少女」がアニメとして再制作されるなど、80 年代当時の作品がリメイクされる現象が、映画、テレビの世界で起きています。今回、上映される作品には、これらのオリジナル作品が含まれています。リメイク版しか知らない若い世代は、こうした 80 年代のオリジナル作品や当時の女優たちを観ることで新鮮な驚きを感じるでしょう。

③トークショーと作品上映で 80 年代を浮かび上がらせる

テレビや映画、CM などの第一線で活躍する 30 代後半から 40 代のクリエーターたちが多感な時期を過ごしたのは、80 年代です。彼らに、当時の映像文化が影響を与えていることは明らかでしょう。特に当時数多く作られたアイドル映画を掘り下げることで、当時の文化が現代にどのような影響を与えているか、トークショーと作品上映の両方から、当時の時代背景と現代との関係を探ります。

④金沢ロケ作品に映し出された、80 年代の“金沢”

今回上映される「愛情物語」と「恋する女たち」は金沢でロケが行われました。そこにはかつて 109 の裏にあった映画館街が映し出されるなど、80 年代の金沢の街も記録されています。

上映作品

◆ねらわれた学園

［1981 年/角川春樹事務所/90 分］

製作:角川春樹　監督:大林宣彦　原作:眉村卓　脚本:葉村彰子　撮影:阪本善尚　音楽:松任谷正隆

出演:薬師丸ひろ子/高柳良一/峰岸徹/手塚眞/長谷川真砂美/他

『野性の証明』でデビューし、飛ぶ鳥を落とす勢いで疾走していた薬師丸ひろ子を主演に、大林宣彦監督が眉村卓のＳＦ小説を巧みに料理してみせた。超能力で学園を支配しようとする同級生の野望を、同じ能力を持つ女子中学生が阻止するべく闘う。原作のジュブナイル性に加え、アクロバティックな映像遊びが活き活きと画面を彩る。手塚真の怪演、原作者や角川春樹の特別出演も楽しいバラエティに富んだ作品。

◆セーラー服と機関銃

［1981 年/角川春樹事務所＝キティ・フィルム/112 分］

製作:角川春樹　監督:相米慎二　脚本:田中陽造　撮影:仙元誠三

出演:薬師丸ひろ子/渡瀬恒彦/風祭ゆき/三國連太郎/他

昨年、長澤まさみ主演でＴＶリメイクもされた 1981 年を代表する一大ヒット作。当時“スクリーンでしか出逢えないアイドル”として人気の絶頂にあった薬師丸ひろ子が、『翔んだカップル』でも組んだ相米慎二監督と再び顔を合わせた。組長を襲名することになった女子高生が体験する想像を絶する悲劇の連打を、監督はゆらゆらと立ち上がる陽炎のように画面に焼き付ける。映画的熟成と興行的成功が共棲した奇跡の一作。

◆探偵物語

［1983 年/角川春樹事務所/112 分］

製作:角川春樹　監督:根岸吉太郎　原作:赤川次郎　脚本:鎌田敏夫　撮影:仙元誠三

出演:薬師丸ひろ子/松田優作/岸田今日子/秋川リサ/坂上味和/他

薬師丸ひろ子と松田優作という、夢の競演が実現した超話題作。勝気なお嬢様と、さえない探偵。事件に巻き込まれていく過程で、互いが接近する様を追う。天才、根岸吉太郎監督の演出は、薬師丸と松田の肌合いの違い、芝居の距離感を、むしろ女と男の根源的すれ違いに託して、じりじりさせる。大胆なキス場面も話題になったが、それ以上に“何も起こらない時間”を前に対峙する男女の緊張感がひたすら生々しい。

◆メイン・テーマ

［1984 年/角川春樹事務所/101 分］

製作:角川春樹　監督:森田芳光　原作:片岡義男　撮影:前田米造

出演:薬師丸ひろ子/野村宏伸/桃井かおり/財津和夫/戸川純/他

“流行監督”と謳われた才人、森田芳光監督と、トップを独走する映画女優、薬師丸ひろ子がドッキング。沖縄ロケによるラブストーリーながら、恋愛映画の情感よりは、ヘンテコな人物が暗躍するストレンジなロードムービー的味わいが優先され、情報量豊かかつすがすがしい余韻は格別。言い換えればこれは“宝探し”のワクワク感をスローモーションで追いかけたような映画であり、薬師丸のマージナルな存在感も新鮮だ。

◆Ｗの悲劇

［1984 年/角川春樹事務所/108 分］

製作:角川春樹　監督・脚本:澤井信一郎　原作:夏樹静子　脚本:荒井晴彦　撮影:仙元誠三

出演:薬師丸ひろ子/世良公則/三田佳子/三田村邦彦/高木美保/蜷川幸雄/他

圧倒的な映画女優でありながら、その人気ゆえにどこかアイドル的にも見られていた薬師丸ひろ子

の演技者としての真髄が丸ごと引き出されたマスターピース的逸品。これが二作目となる澤井信一郎監督の強靭な演出は、荒井晴彦の卓越した脚本ともあいまって、観る者の心をわしづかみにする。女優志願の娘が到達した“スター誕生”の皮肉な瞬間を、あふれんばかりの愛情でつかみとる名場面は永遠に朽ちることはない。

◆雪の断章–情熱–

［1985 年/東宝/100 分］

制作:伊地智啓/富山省吾　監督:相米慎二　原作:佐々木丸美　脚本:田中陽造　撮影:五十畑幸勇

出演:斉藤由貴/榎木孝明/世良公則/河内桃子/岡本舞/他

実に 18 シーンもの場面を 1 カットで撮影するという冒頭の“長回し”が、相米慎二監督ファンの間でも伝説的に語られている一本。孤児の少女が殺人事件に巻き込まれ、ふたりの男性の間で揺れ動くという古色蒼然とした物語でありながら、陰鬱とした情景の中から言い知れぬ生命力が噴出するシークエンスがふんだんにおさめられて圧巻の一言。文字通り逆境に次ぐ逆境に追い込まれるほどに斉藤由貴がみるみる輝き出す。

◆恋する女たち(金沢ロケ作品)

［1986 年/東宝/98 分］

製作:富山省吾　監督・脚本:大森一樹　原作:氷室冴子　撮影:宝田武久

出演:斉藤由貴/高井麻巳子/相楽ハル子/柳葉敏郎/原田貴和子/他

公開当時から既にクラシックと呼ぶべき風格をたたえていた傑作。たとえば上質のフランス映画のような優雅さと、コケティッシュな躍動が隣り合わせにある。恋にあたふたするヒロインを全身で体現した斉藤由貴は、小林聡美との絶妙な掛け合いに顕著なように、生来持っていたコメディエンヌ的才能を見事に開花させた。それまで“男の子映画”を得意としてきた大森一樹監督の鮮やかな新境地でもある。80 年代の芳醇を満喫せよ。

◆トットチャンネル

［1987/東宝/97 分］

製作:富山省吾　監督・脚本:大森一樹　原作:黒柳徹子　撮影:五十畑幸勇

出演:斉藤由貴/渡辺典子/村上里佳子/他

黒柳徹子の自叙伝を基に、日本のテレビ創成期の舞台裏を背景に据え、ひとりの女の子の自立心を描く。とはいえ、いわゆるノスタルジーにあふれた文芸ものでも、ありきたりの少女成長物語でもない。むしろ斉藤由貴を軸とした風変わりな群像劇として見れば、この映画が含有した面白さは倍増する。高嶋政宏ら、サブキャラクターひとりひとりがそれぞれのスピードで歩く“生きる呼吸”の交錯ぶりが、ヒロインを照射する。

◆「さよなら」の女たち

［1987 年/東宝/93 分］

製作:石井幸一/市村朝一　監督・脚本:大森一樹　撮影:水野尾信正

出演:斉藤由貴/雪村いづみ/古村比呂/伊武雅刀/浅茅陽子/竹内力/他

斉藤由貴＝大森一樹のゴールデンコンビによる三部作の最終章。前二作には原作があったが、これは映画用の完全オリジナルストーリーであり、より自由に伸び伸びと演じ手と作り手がコラボレートしている様が痛快。大学卒業直前と就職間近という中途半端で不安定な時間を生きる主人公が、突然“自分探し”を始めた父親と母親を目の当たりにして、右往左往する。これまでのエッセンスを凝縮、爆発させた映画的筆致！

◆時をかける少女

［1983 年/角川春樹事務所/104 分］

製作:角川春樹　監督:大林宣彦　原作:筒井康隆　脚本:剣持亘　撮影:阪本喜尚

出演:原田知世/高柳良一/尾美としのり/岸部一徳/根岸季衣/上原謙/入江たか子/他

昨年のアニメーション版でもおなじみ。筒井康隆のファンタジー小説を、大林宣彦監督が鮮烈に銀幕に焼き付けた名作。未来からやって来た転校生に抱く、少女の恋心とその行方。失われ、よみがえり、再びめぐりあう不可思議な“時間”のありようを、女の子の体内速度に合致させたアクロバティックな映像文体は、いまもなお多くの作り手に影響を与えている。尾道の風景と、原田知世のリリカルなたたずまいのマッチングぶりも秀逸。

◆愛情物語(金沢ロケ作品)

［1984 年/角川春樹事務所/101 分］

製作・監督:角川春樹　原作:赤川次郎　脚本:剣持亘　撮影:仙元誠三

出演:原田知世/倍賞美津子/渡瀬恒彦/室田日出男/加賀まりこ/他

『メイン・テーマ』と同時上映された角川春樹監督、原田知世主演作品。原作は当時、角川映画では定番の存在だった赤川次郎。“あじながおじさん”をモチーフに、実の父親を探す旅に出る少女の冒険物語。それまでは比較的“静”のイメージだった原田は、ここでミュージカルやジャズダンスに挑戦、“動”の魅力を見せた。監督の狙いは、原田の少年っぽさをクローズアップすることにあったという。金沢でもロケ撮影された。

◆私をスキーに連れてって

［1987 年/フジテレビジョン＝小学館/96 分］

製作:三ッ井康　監督:馬場康夫　原作:ホイチョイプロダクションズ　脚本:一色伸幸　撮影:長谷川元吉

出演:原田知世/三上博史/原田貴和子/沖田洋之/鳥越マリ/他

ウンチク漫画などで活躍していたホイチョイ・プロダクション主宰の馬場康夫が初めてメガホンをとった画期的な日本映画。スキーを媒介にした恋愛劇だが、スキーにまつわる情報の盛り込み方が尋常ではなく、映画の土壌を従来の堅苦しい枠組から解放した先鋭的作品だった。後のゲーム／インターネット的物語世界を先取りしていたともいえる。ヒロインの原田知世は、馬場の第二作『彼女が水着にきがえたら』にも登板。

トークショー

今回取り上げた 3 女優の全員を撮った、大林宣彦監督を迎え、彼女たちの素顔やアイドル映画の果たした役割、当時の時代背景など、貴重な現場の話しを聞く。

◆日時:9 月 9 日(土)　開場 15:15　開演 15:30

※当日 9:30 より整理券を配付します。

◆ゲスト

大林宣彦(おおばやし･のぶひこ)**【映画作家】**

38 年広島県尾道市生まれ。3 歳の時に自宅で出合った活動写真機で、個人映画の製作を始める。上京後、画廊・ホール･大学を中心に上映された 8mm自主製作がジャーナリズムで高い評価を得る。16mm第一作『喰べた人』(63)でベルギー国際実験映画祭で審査員特別賞を受賞。この頃からテレビコマーシャルの草創期に本格的に関わり始め、チャールズ・ブロンソンの「マンダム」、ソフィア・ローレン、カトリーヌ・ドヌーヴなど外国人スターを多数起用、

その数は 2000 本を超える。77 年『ＨＯＵＳＥ/ハウス』で劇場映画にも進出。同年の『瞳の中の訪問者』と共に“ブルーリボン新人賞”を受賞。故郷で撮影された『転校生』(82)『時をかける少女』(83)『さびしんぼう』(85)は“尾道三部作”と称され親しまれている。その他、主な作品として『ねらわれた学園』(81)『廃市』(83) 『彼のオートバイ、彼女の島』(86)『はるか、ノスタルジィ』(92)『あした』(95) 『なごり雪』(02) など。『異人たちとの夏』(88)で“毎日映画コンクール監督賞”、『北京的西瓜』(89) で“山路ふみ子監督賞”、『ふたり』(91) で“アメリカ・ファンタスティックサターン賞”、『青春デンデケデケデケ』(92) で“平成 4 年度文化庁優秀映画作品賞”、『ＳＡＤＡ』で“ベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞”、宮部みゆき原作『理由』(04) で“日本映画批評家大賞・監督賞”、“藤本賞奨励賞”を受賞。最新作は『２２才の別れ　Lycoris 葉見ず花見ず物語』、『転校生　さよならあなた』(2007 年夏公開)。第 21 回日本文芸大賞・特別賞受賞の『日日世は好日』など著書も多数。2004 年春の紫綬褒章受章。
現在、京都成安学園・成安造形大学と加計学園・倉敷芸術科学大学の二校で客員教授を、尚美学園・尚美学園大学大学院では教授に就任中。また、星の降る里・芦別映画学校の校長でもある。

ナビゲーター
相田冬二(あいだ・とうじ)
相田冬二　あいだ･とうじ　１９６５年生まれ。ライター。「Ｉｎｖｉｔａｔｉｏｎ」「ぴあ」「GALAC」「GOETHE」「ソトコト」「キネマ旬報」「映画芸術」などの雑誌、日本映画の劇場用パンフレットを中心に執筆中。編著書に「映画×音楽　セッション・レポート１０３」(音楽之友社)、「ショートフィルム革命」(ぴあ) など。三池崇史「監督中毒」、阪本順治「孤立、無援」(共にぴあ) の構成も手がける。２００２年、PFF の特集上映＜PINK２００２　あなたの知らない愛の映画＞のプログラミングを担当。今年、小説版「キサラギ」(角川書店) でノベライズ初挑戦。現在、ノベライズ第２作に取り組んでいる。

本資料に関するお問い合わせ
金沢 21 世紀美術館
担当:落合
TEL：076-220-2811
FAX：076-220-2806
〒920-8509　金沢市広坂 1-2-1
http://www.kanazawa21.jp
E-mail:press@kanazawa21.jp

※ 写真は上記へお問い合わせください。
また大林宣彦氏に対するインタビュー取材等ご希望の方は事前にご連絡下さい。